

# 佐賀県公立高校入試徹底分析【社会】

## 【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	50点
問題構成	大問6題。地理・歴史・公民の分野ごとに大問各2題。 地理は、世界地理の大問で9点。日本地理の大問で8点の計17点。 歴史は、古代～近世の問題で9点。近代以降の問題で9点の計18点。 公民は、政治や現代社会に関する問題が8点。 経済や国際社会に関する問題が7点の計15点。		

	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)	令和3年度(2021)	令和2年度(2020)	平成31年度(2019)
問題量(A4で)	14ページ分	14ページ分	14ページ分	14ページ分	14ページ分
小問数	38問	40問	40問	39問	39問
論述問題の数	4問	5問	7問	6問	5問
論述問題配点	7点	6点	9点	8点	6点
受験者平均点	28.0点	25.7点	30.4点	30.2点	30.8点

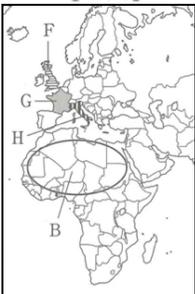
## 【出題の傾向と対策】

① 世界地理の問題で、世界の国や州に関する問題が出題されているので特徴をつかんでおく。

R5 1

4 みのもるさんは、ヨーロッパの人々の生活と環境について調べ、夏休みに家族で【地図】のF国、G国、H国の順で旅行した。ア～ウはこの3つの国それぞれの旅行の思い出を記したものである。ア～ウをみのもるさんが旅行した順に並べて、記号を書きなさい。

【地図】                      ア                      イ                      ウ





この国の南浜では、海水浴や日光浴を楽しむ人が多かったです。夕食はコース料理を頼みました。父と母はお酒に合わせたワインを楽しんで、満足そうでした。



この国の首都には歴史的建造物が多く、コロッセウムを見ることができました。ピザやパスタなどの味付けは地域性があってどれもおいしかったです。



この国の首都では、大きな宮殿や有名な時計台を見ました。昼食はフィッシュアンドチップスを食べました。日本はどの暑さもなく、過ごしやすかったです。

① 世界の国々、地域の人々の生活、農業、工業などの問題が頻出！各国の名前や位置を確実に覚えるためにも、勉強する際は、地図を何度も確認しよう。

② 地理分野で、気候や雨温図に関する問題が出題される。各地の気候の特徴をしっかりと理解するために、多くの問題に触れておく。

R5 2

1 次の会話文は、みやこさんが九州に到着した時に、くすおさんと話したものである。二人の会話文中の X、Y にあてはまる語句をそれぞれ書きなさい。

【会話文】

みやこ：九州は東京都に比べて暖かく感じるわ。東京都よりも南にあるからかな。

くすお：理由はそれだけじゃないよ。九州は、近海に暖流の X、Y が流れているから、冬でも比較的暖かいんだよ。

② R3には、ヨーロッパの大西洋岸が冬季でも比較的温暖になる要因の「北大西洋海流」・「偏西風」を答えさせる問題が、R2には、東北方の太平洋側で冷害の要因となる「やませ」に関する問題が出題されている。また、雨温図が出題されることもあるので、各地の気候の特徴もしっかり理解しておく必要がある。

③ 歴史分野で、年代の並び替えの問題が出題されるので、歴史の流れをつかんでおく。

R5 4

2 【カードA】と同じ時期のできごとについて述べた次のア～エの文を、年代の古いものから順に並べて、記号で答えなさい。

- ア 内閣制度ができると、初代内閣総理大臣に伊藤博文が就任した。
- イ 代表者が集まり国会期成同盟を結成し、政府に国会の開設を求めた。
- ウ 板垣退助は民撰議院設立（の）建白書を政府に提出し、国会の開設を求めた。
- エ 板垣退助を党首とする自由党、大隈重信を党首とすると立憲改進黨が結成された。

③この問題は正答率が13%と低く、他の生徒と差がつく問題となった。R5の大問4では、年代を古い方から並び替える問題が、3問出題された。（問3は「1894年：日清戦争」・「1895年：下関条約」・「1904年：日露戦争」・「1905年：ポーツマス条約」の並び替え）（問6は「1937年：盧溝橋事件」・「1940年：日独伊三国同盟」・「1942年：ミッドウェー海戦」の並び替え）並び替えの問題は、過去5年間、毎年、出題されている。ただ用語を覚えるのではなく、しっかりと流れを理解する必要がある。

④ 歴史分野で、佐賀県にちなんだ問題やテーマが扱われている。普段から、社会の授業で習ったことを、佐賀県の歴史や出来事、話題と関連づけることが大切。

R5 3

7 会話文中の  にあてはまる語句を書きなさい。

【資料5】



【会話文】

花子：次の【資料5】は、 を描いた図です。幕末に佐賀藩で大砲を製造するために築造された施設ですね。  
太郎：日本で佐賀藩が一番最初に実用化したものだそうです。

④この問題は、正答率が13%と低く、他の生徒と差がつく問題となった。その他、「吉野ヶ里遺跡」、「佐賀藩主、鍋島直正の改革」、「佐賀県にある指定文化財」などがテーマとして扱われたことがある。

⑤ 資料を読み取っていく形式の問題の出題が増加している。文章、グラフや資料を正しく読み取れば、確実に正解できる問題がほとんどである。グラフや資料を見る際は、数字や割合が一番大きい箇所、小さい箇所に注目することがポイント！

⑥ 似たような問題が数年ごとに出題されるため、最低5年分は過去問を解いておく。

R5 6

5 次の【カード1】、【カード2】から、不況時の状況とそれに対応する財政政策をそれぞれ選び、その組み合わせとして最も適当なものを、下のア～エの中から一つ選び、記号を書きなさい。

ア I - a    イ I - b    ウ II - a    エ II - b

【カード1】不況時の状況

- I 所得税などの国税の税収が増える。
- II 所得税などの国税の税収が減る。

【カード2】財政政策

- a 政府は公共事業への支出を増やそうとする。
- b 政府は公共事業への支出を減らそうとする。

⑥R5には、不況時におけるふさわしい財政政策が出題されたが、財政政策に関する同様な問題は、R4、R1でも出題されている。また、本年度出題された、以下のテーマや用語が過去5年間で出題されている。

- ◆「二期作」(出題年：R5、R2)
- ◆「再生可能エネルギー(地熱・風力・太陽光発電)」(出題年：R5、R4、R3)
- ◆「パリ協定」(出題年：R5、R4)

⑦ 「エコタウン(正答率19%)」・「マイクロクレジット(正答率3%)」を問う問題の正答率は、20%を下回った。他と差をつけるためには、学校の教科書を読み込む必要がある。

解答

R5 1 4 ウ →ア →イ                      R5 2 1 X 黒潮(日本海流) Y 対馬海流

R5 4 2 ウ →イ →エ →ア              R5 3 7 反射炉

R5 6 5 イ